

II. 活動報告

① 意識改革

①-1 男女共同参画シンポジウム

「男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言」1周年
—未来につなげる女性研究者の育成—

日時：11月19日（月）14：40～17：10

場所：山形大学小白川キャンパス
理学部S401教室

参加：101人

内容：平成23年11月11日の「男女共同参画シンポジウム」参加者一同によって採択された「男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言」1周年に当たる今年度は、「未来につなげる女性研究者の育成」をテーマに大学コンソーシアムやまがたと共催でシンポジウムを開催した。

【開会挨拶】学長 結城章夫

【基調講演】「女性研究者育成のこれから」

小館香椎子氏（独）科学技術振興機構男女共同参画主監、電気通信大学特任教授、日本女子大学名誉教授

要旨：「育成を目指す女性研究者像は、国際社会で活躍できるバランス感覚のある女性研究者／オピニオンリーダーであり、その育成の3本柱は、多様でイノベーションにつながる研究の推進、指導（教育）能力の習得・向上、研究室運営を含むマネジメント・スキルの向上である。女性の研究成果の『見える化』に向けて競争的資金への積極的応募と国際共同研究・交流への参加を進めてほしい。」

【挨拶】山形県立米沢女子短期大学長 遠藤恵子氏

【取組紹介】「広がる女性の育成と活躍」

○佐々木隆行氏（山形県立山形西高等学校教諭）「理系女子の進路選択の幅を広げる試み」

要旨：「山形西高等学校は、平成24年（独）科学技術振興機構のSSP（サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト）に採択され、「山西リケジョプロジェクト」に取り組んでいる。理系の女子生徒が看護医療分野へ偏る原因の1つは、進路選択時の知識・体験の不足ではないかと考え、医療分野以外の内容や魅力を知った上で、進路選択が出来るようにアシストする。これがリケジョプロジェクトである。」

○平尾彰子氏（鶴岡工業高等専門学校物質工学科助教）「食事が薬になる科学」

要旨：「山形県酒田市出身で、早稲田大学大学院博士課程在籍中に、第10回杉田玄白賞を史上最年少で受賞した。専門は時間栄養学で、薬が変わる食品の追究に取り組んでいる。鶴岡工業高等専門学校の専門学科では初の女性教員として平成24年4月に着任した。これまで研究していく上で、メンターの存在が大きい。感謝している。」



○井深章子（山形大学理学部物質生命化学科准教授）「仕事と子育て～その現状について～」

要旨：学部生の時に当時珍しい動画でタンパク質の構造を見た時の感動が大きく、それ以来タンパク質の構造解析や性質を研究している。現在、小学2年生と4年生の2児の子育てと研究を両立している。これまで、出産や夫の海外赴任等で退職したり常勤から非常勤へ変更したりなど、プライベートとリンクして仕事を変えざるを得ない状況があったが、今は女性研究者支援が始まって勇気づけられている。

【パネルディスカッション】「男女共同参画に向けて」

コーディネーター 伊藤真知子氏（東北公益文科大学教授）

パネリスト 阿部和久氏（山形県立山形西高等学校長）

宮崎孝雄氏（鶴岡工業高等専門学校副校長）

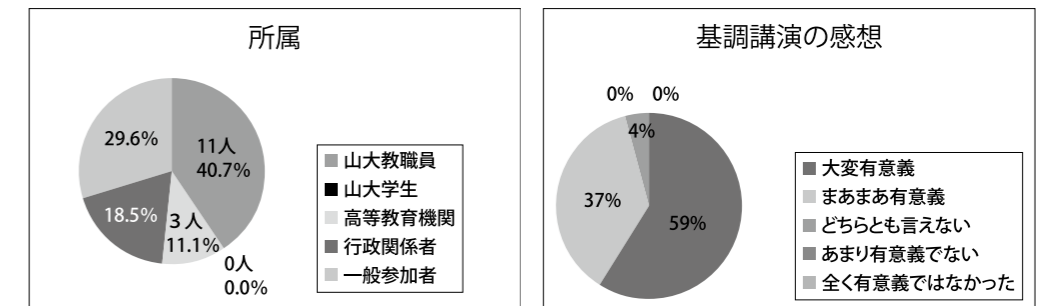
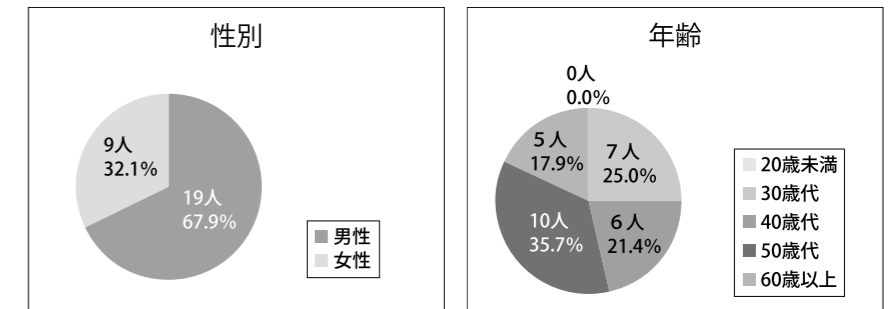
北野通世（山形大学男女共同参画推進室長）

コメンテーター 小館香椎子氏

各機関から取組の説明があった後、会場からの質問に答える形でディスカッションが進められた。理系女性研究者を増やすために、高等教育機関と高等学校さらに中学校との連携も必要ではないかという課題も出された。

シンポジウムの模様は当日夕方の県内ニュースでテレビ（YBC山形放送）放映された。


参加者のアンケート結果
(回収28人)



参加者の意見

- ・多彩な方々のお話を聞くことができ大変刺激になった。中央で活躍されている小館先生と地域の教育機関の方々が顔を合わせてお話しされ、お互い初めて知ることも多かったのではないかと感じた。
- ・取組み紹介に興味深く聞いた。提言や提案がもう少し具体的であればなおよかった。
- ・シンポジウムはとても有意義だと思う。ただ理系問題に焦点が当てられると文系研究者の参加インセンティブは低くなると思う。
- ・山形西高等学校の取組みで、研究室訪問を行い実際に見ることが大事だということ、女子高校生が憧れるロールモデルを示すことが大切だということが参考になった。
- ・高等教育機関の取組みが聞けて勉強になった。山形大学の取組みに期待する。

①-2 | 学長・学部長と女性研究者との懇談会

学部名	日時	場所	対象者	テーマ	参加数
人文学部	1月9日(月) 11:00~12:00	2号館 第2会議室	男女教職員	「ワークライフバランスの現状と課題」	17人
 <p>県外から来ている教職員には子育てに必要な情報が少ない。情報提供などのサポートがあると助かる。男女共同参画は男女共に考えていく必要がある。会議時間の短縮のために、開始・終了時刻の設定が大切だ。</p>					
地域教育 文化学部	8月1日(水) 11:30~13:00	会議室	男女教職員	「ワークライフバランスについて」	14人
<p>女性教員が増えていないことを真剣に考える必要がある。会議の設定を工夫しないと事務職員にも負担をかける。学部改組に関わる超過勤務が続き体調を崩した。担当を超えた業務の分担をしてほしい。</p>					
理学部	2月12日(火) 16:30~17:30	理学部 13番教室	男女教職員 大学院生	フリーディスカッション	20人
 <p>子育て支援の制度があるのは安心材料になるが、その制度が利用しやすい雰囲気なのも重要だ。男性も使える雰囲気になってほしい。</p>					
医学部	2月14日(木) 16:00~17:00	医学部 第1会議室	男女教職員	「女性が働きやすい環境に向けて」	26人
 <p>「保育所の現状と問題点」「病児保育」「勤務形態」等について懇談が行われた。現在、病児保育を検討している。病児にとっては親と一緒にいたい。親も同じ。ただどうしてもだめな時もある。手術中で迎えに行けない時もある。</p>					
工学部	10月1日(月) 14:30~15:30	100周年 記念会館	男女教職員	フリーディスカッション	19人
<p>当初、研究室の近くに女性用トイレがなく困った。妊娠中は和式トイレは大変だ。また、子育て期は、職場に近い駐車場を配分するなど配慮してほしい。話を聞いて、気付かないことが色々あることが分かった。</p>					
農学部	8月9日(木) 14:45~15:45	農学部会議室	男女教職員	フリーディスカッション	18人
<p>育児期を支援する研究継続支援員制度やメンター制度はなくてはならないものになっている。このような女性研究者支援があることを学生のうちから知らせておくことが必要だ。</p>					
基盤教育院	11月19日(月) 11:10~12:10	基盤教育棟 会議室	男女教職員	「女性研究者にとって必要な研究環境」	14人
<p>学会出張時の保育支援制度ができてよかった。研究会等でも利用できるとありがたい。女子学生と女性教員との交流の場もあるといいのではないかと。女子学生も色々な場面で悩みをもっているようだ。</p>					

①-3 | 第4回男女共同参画フェスタ

日時：6月19日(火)～7月24日(火)

場所：インフォメーションセンター

小白川図書館及びシアタールーム

事務局棟第1会議室

内容：内閣府の「男女共同参画週間(6月23日～29日)」に合わせて、山形大学男女共同参画フェスタを毎年開催し、4回目となる。「男女共同参画週間」は、平成11年6月23日の男女共同参画社会基本法公布・施行を踏まえ、同法の目的や基本理念について理解を深めるもので、この趣旨にそって右ポスターのとおりフェスタを開催した。

パネル展

テーマ

- ・「山形大学ワークライフバランス実現への取り組み」
- ・「女性と災害—支援の絆」



東日本大震災から1年3ヶ月。この間の山形と宮城の女性たちの支援の絆を紹介するパネル展も同時開催した。

ヌエック図書展 200冊の関連図書紹介



シネマトーク

マレーシア(クアラルンプール)からの留学生ヌー・アティカさん(人文学部1年生)を囲み、アラブ諸国やマレーシアと日本の生活の違い、イスラム教と女性の服装などについて語り合った。

山形大学
男女共同参画フェスタ
6月19日～7月24日

パネル展 6/19(火)～7/24(火)
(山形大学インフォメーションセンター・理学部1号館東側)
「山形大学ワークライフバランス実現への取り組み」
「女性と災害—支援の絆」

ヌエック図書展 6/22(金)～7/24(火)
(山形大学小白川図書館)
ヌエック(山形大学女性学舎)所蔵の「アラブ」関連書籍「ワークライフバランス」をテーマとした関連図書200冊の書籍を展示・貸出します。
(予約のみ貸出)

シネマトーク
7月12日(木) 17:00～18:30
開催：小白川図書館1階シアタールーム
題名：「遊牧民の家」
山形大学ドキュメンタリー映画祭2011上映作品
トーク：留学生と語る「イスラム世界の女性」

男女共同参画セミナー
「多様化する社会での
コンフリクト・マネジメント」
—意見や価値観の異なる人と協働していくために—
講師：中西淑美(山形大学医学部総合医学教育センター 准教授)

8月6日(月) 13:30～16:30
会場：小白川キャンパス 事務局棟3階第1会議室
対象：学生・教職員・一般 30名程度
*要申込(決着次第)

お問い合わせ
山形大学男女共同参画推進室
電話：023-628-4937/4938/4939
E-mail: danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

参加無料

たくさんの方のご来場をお待ちしています。

山形大学図書館上映会 特別版

山形大学 男女共同参画フェスタ上映会

映画『遊牧民の家』(山形大学ドキュメンタリー映画祭2011上映作品)に見る
イスラム世界の女性たち

2012.
7/12 [木]
17:00～
※上映の後にトークがあります。

会場：
山形大学
小白川図書館
1F シアタールーム

入場無料



山形大学男女共同参画推進室では、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目的とし、学生教職員及び市民の方々に共催し、「男女共同参画フェスタ」を6月19日～7月24日(10日間)で開催しています。映画上映の他、パネル展やヌエック図書展、男女共同参画セミナーなど、様々なイベントを開催しています。

【主催】 山形大学男女共同参画推進室、山形大学の川図書館、山形大学ドキュメンタリー映画祭
【問い合わせ】 phone: 023-666-4480 山形大学ドキュメンタリー映画祭事務局

② 研究支援（セミナー等）

◎work◎life◎
balance innovation

①-4 女性研究者交流会（ランチミーティング）

キャンパス	日時	場所	対象者	テーマ	参加数
小白川 キャンパス	4月27日（金） 12：00～13：00	事務局棟 第2会議室	男女教職員	「ワークライフバランス実現 のために」	12人
<p>ワークライフバランス実現のために、教員、職員それぞれの立場を考慮した具体的な改善策が話し合われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの勤務時間の違いに配慮する 多様な勤務制度・勤務時間の教職員が一緒に働いていることを理解し、気持ちよく仕事ができるようにする。 ・応援を求める声を出す 一人で抱えずに応援を求める声を出す。ミーティング等を定期的にもち、各自の仕事の状況や情報の共有化を図る。 ・超過勤務を減らす努力をする 各自の家庭生活や趣味、教養等を身につける時間を尊重する雰囲気作りに努め、特に子育て期などの教職員に配慮する。 					
鶴岡 キャンパス	11月30日（金） 12：00～13：00	1号館 会議室	男女教職員	「育児を伴う家庭と仕事の両 立について」	15人
 <p>4人の話題提供者（長谷修准教授、渡辺理絵准教授、海野博之総務担当係長、加藤幸学務担当主任）から、日頃、生活と仕事を両立する上で感じていること困っていることなどが出され、意見交換が行われた。西澤農学部長から、仕事のやり方を工夫して楽しく仕事をするを旨したいという挨拶があった。</p>					
小白川 キャンパス	2月12日（火） 16：30～17：30	厚生会館 アンジェ	男女教職員	「仕事と子育て等、両立の状 況」	16人
 <p>子育て真っ最中の人と子育て経験者（三澤美和子主任、楠本健二講師、金子美華講師、長岡一宏上席係長）からの話題提供をもとに語り合った。幼児の時の関わりが成長した後のいい父子関係につながっているという。周りの方に「すみません」ではなく「ありがとう」という言葉がけに変えていこうという提案が出された。</p>					
小白川 キャンパス	3月27日（水） 12：15～13：00	厚生会館 アンジェ	男女教職員	「仕事を長く続けるコツは」	15人
<p>4人の先輩教職員（河村新蔵理学部教授、鬼島百合子インフォメーションセンター担当、内野春枝労務課共催担当、小林恵美附属中学校事務室職員）を迎えて、仕事を長く続けるコツについて語り合った。</p>					

②-1 科研費採択勉強会

子育て期等の女性研究者が集まりやすい昼食休憩時を使って、科研費採択勉強会を開催した。

日時：7月4日（水）・11日（水）・12日（木）

12：00～13：30

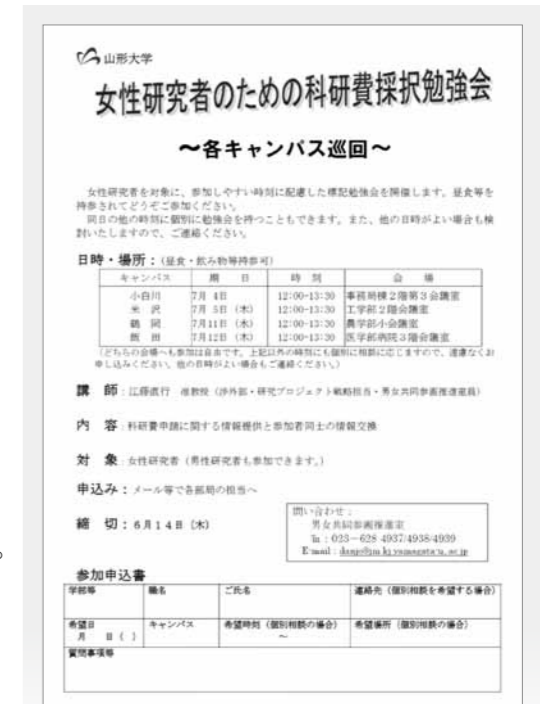
講師：江藤直行准教授（渉外部・研究プロジェクト戦略担当・男女共同参画推進室員）

参加：小白川キャンパス2人、飯田キャンパス8人、鶴岡キャンパス2人、合計12人

感想：・詳しい資料と丁寧な説明で分かりやすかった。

申請書作成へのモチベーションが上がった。
・少人数だったので、質問も気軽にすることができてよかった。

・参加者が、自分の申請書を持ち寄って書き方を勉強するような場もほしい。



山形大学
女性研究者のための科研費採択勉強会
～各キャンパス巡回～

女性研究者を対象に、参加しやすい時間に配慮した採択勉強会を開催します。昼食等を兼ねさせていただきます。当日の都合等により開催を中止することもございます。また、他の日時がよい場合も検討いたしますので、ご連絡ください。

キャンパス	期日	時刻	会場
小白川	7月4日	12:00-13:30	事務局棟2階第2会議室
鶴岡	7月11日（水）	12:00-13:30	工学部2階会議室
飯田	7月12日（木）	12:00-13:30	医学部医務室会議室

※どちらの会場にも参加は自由です。上記以外の時期にも随時開催いたしますので、ご連絡ください。他の日時がよい場合もご連絡ください。

講師：江藤直行 准教授（渉外部・研究プロジェクト戦略担当・男女共同参画推進室員）

内容：科研費申請に関する情報提供と参加者同士の情報交換

対象：女性研究者（男性研究者も参加できます。）

申込み：メール等で各担当の担当へ

問い合わせ：男女共同参画推進室
TEL: 023-628-4937-4939
E-mail: danj@ipc.ky.yamagata-u.ac.jp

参加申込書

学部署	職名	ご氏名	連絡先（個別相談を希望する場合は）
希望日 月 日（ ）	キャンパス	希望時間（個別相談の場合は）	希望場所（個別相談の場合は）

資料事項欄

②-2 多様化する社会でのコンフリクト・マネジメント

―意見や価値観の異なる人と協働していくために―

日時：8月6日（月）13：30～16：30

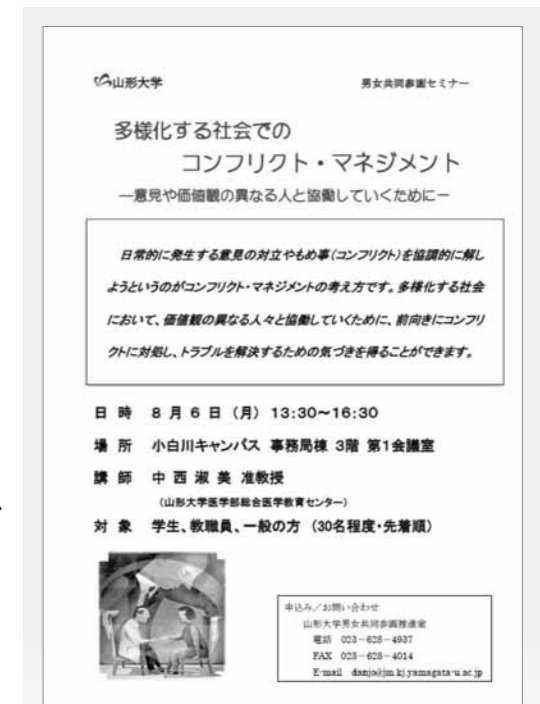
場所：事務局棟第1会議室

講師：中西淑美准教授（医学部総合医学教育センター）

参加：30人

内容：紛争、対立などと訳されるコンフリクトと言

う言葉から何を連想するかという問いかけがあった。コンフリクト状況は、紛争、訴訟、離婚、嫁姑問題など多様である。コンフリクト場面での対応として、順応、妥協、対決、回避、協調（協働）のスタイルがあるが、自分の癖を見つめ、協調的になるために何をしたらよいかを考えることが重要。争いの表面に現れているのはわずかなことであり、お互いに見ているものは違うので、相手は何を見て感じているのか、いったい何を言いたいのかをよく聞き、対話し、情報を共有していくことで、問題の枠組みが変容する可能性があるというアドバイスがあった。



山形大学
男女共同参画セミナー
多様化する社会での
コンフリクト・マネジメント
―意見や価値観の異なる人と協働していくために―

日常的に発生する意見の対立やもめ事（コンフリクト）を協力的に解決しようというのがコンフリクト・マネジメントの考えです。多様化する社会において、価値観の異なる人々と協働していくために、前向きにコンフリクトに對処し、トラブルを解決するための気づきを得ることができます。

日時 8月6日（月）13:30～16:30

場所 小白川キャンパス 事務局棟 3階 第1会議室

講師 中西淑美 准教授
（山形大学医学部総合医学教育センター）

対象 学生、教職員、一般の方（30名程度・先着順）

申込み/お問い合わせ
山形大学男女共同参画推進室
電話 023-628-4937
FAX 023-628-4014
E-mail danj@ipc.ky.yamagata-u.ac.jp

③ 研究と育児等の両立支援

◎work◎life◎
balance innovation

感想：・分かりやすかった。コンフリクトは日常、誰もが体験する身近な問題で、勉強になった。
・自分の考えに固執せず、相手からはどう見えているのかを考える大切さに気づいた。
・キーワードである“恐れない”“待つ”“諦めない”を心がけていきたい。



②-3 研究者のための英語論文書き方セミナー

1回目

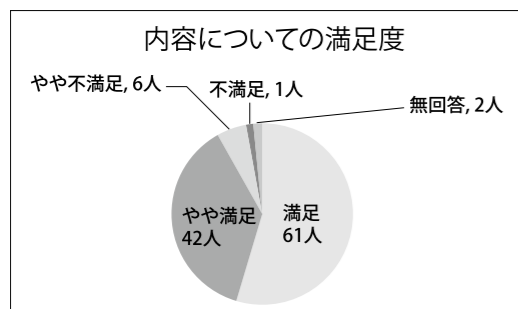
日時：平成25年3月5日（火）13：00～17：00
場所：医学部視聴覚教室
講師：Melinda Hull（ミリンダ ハル）氏
参加：95人

内容：英語論文のスタイルとフォーマット、構成、必要な文法についての基本を押さえると共に、日本人が陥りやすい誤りについて、豊富な経験をもとに解説がなされた。

2回目

日時：平成25年3月6日（水）13：00～17：00
場所：小白川キャンパス事務局棟第1会議室
講師・内容：同上
参加：60人

参加者の感想：回答総数112



- ・子どもがいるとチャンス（サバティカルなども含め）がなくなるので、それを補うこのような企画を年に1回はお願いしたい。英会話や英語プレゼンなどのセミナーを開催してほしい。
- ・これまでの論文の書き方に対する考え方・捉え方が変わった。改めて確認できた所も多かった。時間がタイトで残念だったと思う。
- ・何回でも時間をかけてじっくり受講したい。繰り返して開催してほしい。
- ・終盤での添削例などに時間をかけてほしい。

教職員、学生、留学生を含め、高いニーズがあることがわかった。



(3月6日)

③-1 託児サポーター制度

(1) 託児サポーター制度利用者

仕事と育児の両立を可能にする環境整備の1つとして、平成21年12月1日に開始した制度である。夕方、仕事が長引く場合や学校等が休業で子どもを預ける場所がない場合に、学内の一時保育施設にて、託児サポーター研修を修了した学生が保育士の指導のもとで保育を行う。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
利用登録している教職員数	8人	15人	21人	21人
登録されている子ども数	13人	23人	31人	29人
年間延べ利用回数	15回	71回	45回	49回
年間延べ利用時間	28時間	227.5時間	153.5時間	151時間
託児サポーター（学生）数	29人	45人	50人	40人

(2) 託児サポーター養成講座

託児サポーターとして活動するためには、所定の研修を修了し、山形大学長から認定される必要がある。NPO法人やまがた育児サークルランドの協力を得て、右表のような講義と実習が行われた。

全課程を修了した学生には、認定証と併せて財団法人女性労働協会の発行する修了証が授与された。

平成24年度は、8人が受講したことによりこれまでの認定証受領者は合計82人となった。

(3) 託児サポーターフォローアップ講座

次年度に向けた認定証更新のため、2時間のフォローアップ講座を毎年実施している。

今年度は、保健所の医師、保健師による「感染症予防」を中心とした内容で行い、手洗い方法や嘔吐物処理方法について具体的な講習を受けた。

平成24年度 山形大学託児サポーター養成講座・日程表

日時	内容	講師	会場	時間
9/18(火)	10:00~12:00	やまがた育児サークルランド 高橋みち子氏	山形大学 基盤教育 1号館2階 127教室	2h
	13:00~15:00	保育の心	山形大学 基盤教育 1号館2階 127教室	2h
9/19(水)	10:00~12:00	子どもの世話	山形大学 基盤教育 1号館2階 127教室	2h
	13:00~15:30	子どもの遊び	山形大学 基盤教育 1号館2階 127教室	2.5h
9/21(金)	10:00~13:00	子どもの栄養と食事	山形大学 子ども保育課 山田真由氏	3h
	14:00~17:00	身体の発育と病気	山形大学 佐々木綾子氏	3h
9/24(月)	10:00~12:00	安全と事故	山形大学 基盤教育 1号館2階 127教室	2h
	14:00~17:00	心の発達とその問題	山形大学 藤岡久美子氏	3h
9/26(水)	14:00~16:00	小児看護の基礎知識	山形大学 基盤教育 1号館2階 127教室	2h
	16:00~18:00	特別な支援を要する子のケア	山形大学附属 特別支援学校 高橋真由氏	2h
土曜日まで は日曜日 (人数により 変動)	10:00~16:00	実習	やまがた育児サークルランド 子育てランド あへべ	6h

上欄：山形大学男女共同参画推進室・やまがた育児サークルランド



保育実習（9月28日）



フォローアップ講座（2月7日）

3-2 研究継続支援員制度

(1) 概要

出産、育児、介護等により十分な研究時間を確保することが困難な女性研究者に「研究継続支援員」を配置し、継続して研究を行うことができるような環境を提供するため平成22年度よりスタートした。当初、多くの研究者に支援が行き渡るように申請を四半期毎としたが、利用者から申請回数が多く煩雑であるという声があったこと、利用希望者の変動が少ないことから平成24年度から申請を半期毎とした。

(2) 利用者数

平成24年度研究継続支援員制度利用者数・利用時間

申請理由	前期	後期	合計
妊娠・出産・育児	6人	7人	13人
介護	4人	5人	9人
合計	10人	12人	22人
支援員配置時間	1,422時間	1,650時間	3,072時間

(3) 利用者の状況（利用実績報告書より）

妊娠・出産・育児・介護という時期を迎えた方や子どもが投薬治療中で感染しやすいため保育所に預けられない方など重大なライフイベントに直面している方々にとって、支援が心理的な支えにもなりモチベーションの維持向上につながっている様子がうかがえた。

3-3 巡回相談員制度

(1) 概要

今年度より、全教職員のワークライフバランスの実現に向けて、希望する全ての男女教職員を対象として巡回相談を行うこととした。

(2) 相談人数

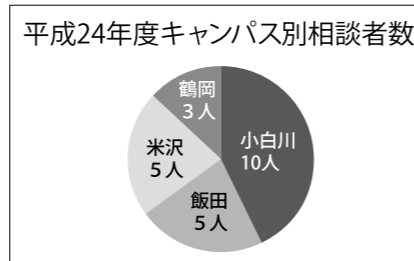
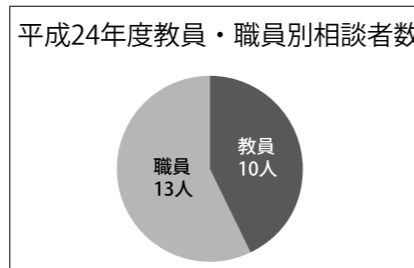
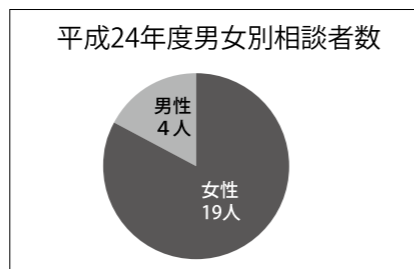
右図のとおり

(3) 実施方法

①受け付け方法

全学に案内をメールで発信したが、申し込みはごくわずかであった。そこで個別に依頼し、了承された方を訪問して話を伺った。

また、相談終了後に次の方を紹介していただくリレー方式にしたところ、育児期の方やワークライフバランスの面で困難を抱えている方を紹介いただくことができた。今年度初めて対象とした男性の場合も、子育て期の方が次の子育て期の男性を紹介してくださった。紹介でつながっていく方法が一番良いように思われた。



②時間と場所の設定

教員の場合は時間の設定が比較的容易で、場所の設定についても医学部の医局は別として研究室をもつ人が多いのでほとんど問題はない。職員の場合は、昼の休憩時間を利用して行う。場所は会議室等を用意する必要がある。事務局棟会議室や理学部2階会議室、人文3号館などを利用した。

(4) 相談内容（要望）

- 子育て期の女性教員
 駐車場を近くにしてほしい。
- 子育て期の男性教員
 夫婦で他県（遠方）から転入してきたため、夫婦二人だけで出産から子育てまで何もかもしなければならなかった。職場の周りの人は、里帰り出産や祖父母の支援があって当然だろうという受け止めで、カップルの現状に理解が少なかった。
 男性同士で育児について話したい気持ちがある。父親になったうれしさや日々の成長の話題を共有するチャンスが職場になく孤独感がある。
- 女性職員（グループ相談）
 残業が多い。休職者の仕事の穴埋めが大変だ。異動が発令されてからの引っ越しや新しい職場に慣れるまでが大変だった。

(5) ワークライフバランスのためにしている工夫

- 出産休暇や育児休業からの復帰の際の工夫
 医療系の場合、産休や育休が終わるまでに論文に目を通したり、実家の医院を手伝って感覚が鈍らないようにした。
 医師同士のカップルで、パートナーと仕事の会話をしていたからそれがウォーミングアップになっていた。
 1人目の子どもの出産のときに4月に復帰したら、子どもが保育所に慣れるのと自分が職場に慣れるのが重なって大変だったので、2人目の時の職場復帰を5月にした。

(6) 相談を終えて

- 直接会うことの重要さ
 直接会ってお話をするにより、男女共同参画推進室の取組やパンフレットなどに関心を向けていただくことができた。
- 子育て期の男性研究者の悩み
 男性は多数だからいいという訳ではない。子育て期の男性は女性研究者と同じく研究への焦りや育児の大変さを抱えている。
- 子育て状況の違い。
 カップルで県外出身者の方と、どちらかの実家が山形県内にある人では、子育て状況は異なる。核家族あるいはパートナーが離れた地域に住んでいる場合は、一人で子育てする人の負担は大きい。子育て支援のNPOや行政の支援、保育ママ制度なども整ってきてはいるがまだ不十分である。
- 子育て世代にとって魅力ある地方都市
 子育て期は職住近接の地方都市は魅力があるという意見があった。比較的狭い範囲に生活圏があり、安定して落ち着いて暮らせる。雪国の不便さに慣れるまでの困難はあるが、それを超えるところで頑張りたいと思うという人が多かった。

③-4 学会出張時の保育支援制度

平成24年4月より学会出張時の保育支援制度を開始した。平成24年度の利用者は5人である。今後さらに周知を図っていく。

平成24年度 学会出張時の保育支援制度

男女共同参画推進室では、女性研究者の研究と育児の両立を支援するため、学会出張時の託児やベビーシッター利用料金の一部を補助する制度を開始しました。

- 1 対象者：**次に掲げる女性研究者とする。
- 山形大学に勤務する教職員（医員を含む）、博士後期課程大学院学生、博士課程学生（医学専攻）、ポスドクターで、国内外の学会へ参加するために託児やベビーシッターを利用する者

- 2 補助額**
1人1回1万円を上限として1回限りとする。

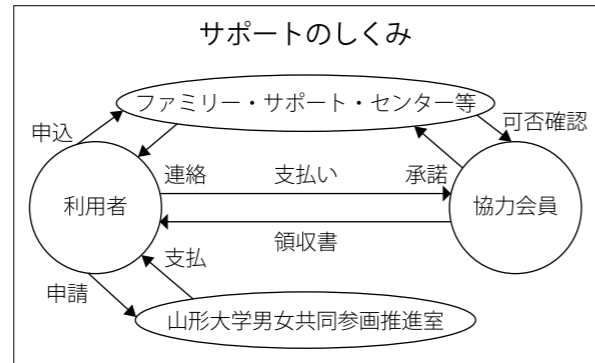
- 3 子どもの年齢（学年）**
小学校6年生以下

- 4 託児・ベビーシッター利用場所**
- 学会に設置された託児ルーム
 - 自宅またはベビーシッターの自宅等
 - ホテルや宿泊場所等

- 5 申し込み方法**
利用申請書・口座振り込み依頼書（学生の場合）を学会出張の1週間前までに男女共同参画推進室に提出する。ご利用になりたい方は以下をダウンロードして申請して下さい。
- 「平成24年度 学会出張時の保育支援制度」利用申請書 (pdf)
 - 「平成24年度 学会出張時の保育支援制度」利用申請書 (doc)

- 6 請求方法**
託児終了後、すみやかに下記書類を男女共同参画推進室へ学内便などで提出する。
必要書類：私金立替払請求書
領収書 参加した学会の名称と日時が分かる資料のコピー

- 7 利用期間** 平成25年3月31日まで



山形県内でベビーシッターを利用する場合の例

山形県内でベビーシッターを利用する場合の例 詳しくは実施要項をご覧ください。
 山形・村山地区 山形ファミリー・サポート・センター
 米沢地区 米沢市ファミリーサポート・センター
 鶴岡地区 鶴岡市ファミリーサポート・センター
 他地区 各自お問い合わせください。

③-5 小白川キャンパス保育所の設置検討

(1) これまでの経緯

山形大学では、2007年（平成19年）に、看護師や医療系職員の多い医学部附属病院のある飯田キャンパスにおいて24時間対応の保育所が設置された。他キャンパスでの保育所設置を求める声もあり、また、職員組合からも「労働条件の改善に関する要求」の中で「事業場内保育所の検討」が常にあげられてきた。

そこで、具体的なニーズや入所児童数を把握するため、平成21年6月に小白川キャンパスで子をもつ教職員を対象にアンケート調査を行い、平成24年1月と3月には小白川キャンパス及び米沢キャンパスの45歳以下の教職員を対象にアンケート調査を行った。それらの結果をもとに、まず小白川キャンパス保育所設置に関して具体的に検討を行うこととなり、平成24年5月に実務者を中心とするワーキンググループが設置され4回の検討会を行った。

(2) ニーズ調査結果

平成24年1月に小白川・松波地区に勤務する45歳以下の教職員359人にアンケートを行い190人（男性91人、女性99人）から回答を得た（回収率52.9%）。その結果、下表に示すとおり、現在、「入所させたいと思う」とする教職員が26人、将来、「入所させたいと思う」とする教職員が80人という結果である。

表 小白川キャンパス保育所の利用希望者数

	①現在、未就学児がおり入所させたいと答えた人 (人)			②将来、子どもをもったら入所させたと答えた人 (人)		
	女性	男性	計	女性	男性	計
1：ぜひ入所させたいと思う。	4	5	9	23	20	43
2：一定の条件がクリアできれば、入所させたいと思う。	10	7	17	22	15	37
3：入所させる考えはない。	16	17	33	19	28	47
無回答	10	8	18	13	10	23
無効回答	0	0	0	0	0	0
非該当	59	54	113	22	18	40
計	99	91	190	99	91	190

アンケート結果から、「ぜひ入所させたい」と答えている9人の教職員の他に、アンケートの対象としなかった飯田キャンパスの教職員からの入所希望も考えられる。

職場に保育所があることで、年度途中からの入所も可能であること、生後1年に達しない子への授乳等の特別休暇の取得も実質的に可能となることから、2年目以降は医学部保育所の場合と同様に入所児童数が増えることが考えられる。

(3) 施設改修の概要について

保育所を新設する場合と既存の施設を利用して保育所に改修する場合が考えられる。厚生労働省の「事業所内保育施設設置・運営費等支援助成金」の対象とはならない（1事業所1回のため）ことから、新しく建設するのではなく、既存の施設の一部改修という案で検討を進め、非常勤講師宿泊施設である瑞樹荘（1987年建築）の玄関・研修室・食堂等を含む1階北側部分（約200㎡）を改修する方向で検討された。

④ 女性研究者の裾野拡大

◎work◎life◎
balance innovation

④-1 高校生・大学生対象セミナー

	開催日	場 所	参加人数	内 容
1	7月27日(金) 16:20~18:00	理学部 11番教室	学部生・院生29人	講演「20年の味覚研究を通して見てきたもの、 見えてきたもの」(農業食品産業技術総合研究 機構食品総合研究所 日下部裕子氏)
2	7月27日(金) 14:00~16:00	農学部 会議室	学部生・院生 ポスドク・教員	講演「研究者になるということ~男と女で違い はあるの?~」(国際農林水産業研究センター 鳥山和伸氏、中央農業総合研究センター 佐々 木香織氏)
3	10月25日(木) 16:00~17:30	工学部 中示範B教室	米沢興譲館 高等学校女子 1・2年生108人、 学生他	講演「やわらかい機械と機会をつくる」 (千葉大学大学院准教授 大武美保子氏)
4	12月5日(水) 13:30	米沢興譲館 高等学校講堂	高校生600人、 保護者、大学生	講演「宇宙・人・夢をつなぐ」 (宇宙飛行士 山崎直子氏)
5	12月15日(土) 13:30~	理学部 研究室 実験室	山形西高等学校 2年女子理系 クラス81人	4人の教員と学生・院生による実験体験 分子遺伝学実験「DNAネックレス作成」 電子顕微鏡操作の体験 生物学科の研究室見学

10月25日に工学部で開催したセミナーでは、米沢興譲館高等学校の1年生女子全員と2年生の理系・理数科クラス的女子計108人が参加した。講演「やわらかい機械と機会をつくる」の中で、機械は硬い印象を与えるが、やわらかいロボットや手触りなどの繊細な研究分野もあり女性が活躍していること、会話支援ロボットの「ぼのちゃん」は、認知症予防に役立っていること等が紹介された。

参加者の感想(80人)から、主に関心をもった内容を大きく5つに分けることができた。

- ①女性の研究や研究者への関心(26%)
- ②認知症予防など人との関わりやケアへの関心(20%)
- ③工学へのイメージの変化(18%)
- ④講師の考え方や態度への関心(16%)
- ⑤その他(20%)

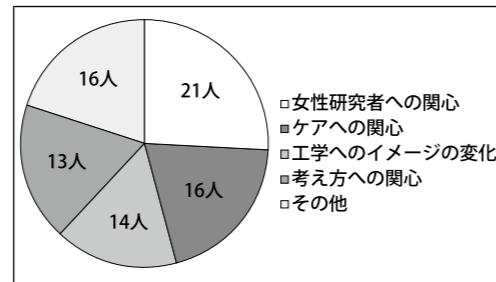


図 セミナー後の感想に記述された関心事項

①と③は、それぞれ、女性研究者や工学に対する新たなイメージの獲得につながっている。②から、人との関わりやケアへの関心が強いことがうかがえる。工学と人との関係やケアへの応用に気づくことが、工学に関心を向ける契機の一つとなると考えられる。

参加した生徒の89%が「参考になった」と答えた。共学校からの女子のみの参加に対する疑問もあったのではないかと考えられるが、時には女子を対象としたこのような措置が行われてもいいのではないかとと思われる。

④-2 基盤教育(教養セミナー)「ウーマン・オブ・ヤマガタ」

(1) ねらい

これからの社会の担い手である学生が、多方面で活躍する学内外の女性たちとの対話を通して、自らのキャリア・ビジョンを描く。仕事と生活について体験に基づいた講義と対話を通して、性別役割分担を見直し、男女とも仕事と生活の調和(ワークライフバランス)が保てる働き方ができる社会について考える。

(2) 講師一覧(敬称略)

	月日(曜)	講師名	所 属
1	5月1日(火) 13:00~14:30	渡辺絵理子	基盤教育院准教授。皮膚の新陳代謝等研究。ラ・フランスやサクランボから化粧品を開発する研究他。
2	5月15日(火) 13:00~14:30	大谷 和子	医学部看護学科教授。附属病院の看護部長から看護学科教授に就任。地域・在宅看護学を研究。
3	5月22日(火) 13:00~14:30	坂本由美子	山形新聞編集局報道部主任。山大理学部卒、1998年入社。社会部、山形市政担当を経て現在経済班。
4	5月29日(火) 13:00~14:30	相沢そのみ	NTTドコモ山形支店長。山大人文学部卒。1987年NTT入社。ドコモ本社・支店・子会社を経て現在に至る。
5	6月5日(火) 13:00~14:30	森 静香	農学部食料生命環境学科准教授。専門は作物学・雑草学、水稻の栽培条件の違いと生育反応を研究。
6	6月12日(火) 13:00~14:30	山口紗世子	熊谷誠法律事務所(山形市七日町)弁護士。山大人文学部卒。山形県内女性弁護士8人の中の1人。
7	6月19日(火) 13:00~14:30	黒谷 玲子	理工学研究科助教。専門は分子生物学、細胞生物学。肺の発生における分子メカニズムの解明等を行う。
8	6月26日(火) 13:00~14:30	井上 聡子	さとこ女性クリニック院長、山大医学部卒。平成23年度山形県男女共同参画社会づくり功労者知事表彰。
9	7月3日(火) 13:00~14:30	矢口 友理	地域教育文化学部生活総合学科助教。生活習慣や食習慣と疾病発症との関わりを研究。
10	7月10日(火) 13:00~14:30	小笠原奈菜	人文学部法経政策学科講師。専門は民事法学。情報提供義務や消費者契約について研究。
11	7月17日(火) 13:00~14:30	井深 章子	理学部物質生命化学科准教授。専門は蛋白質科学でタンパク質の構造と機能を研究。

(3) 受講生(17人)の受講前後の回答

	質 問	はい	いいえ	分からない
前	「男女共同参画社会」について知っている。	57%	36%	
後	同 上	100%	0%	
前	「ワークライフバランス」について知っている。	29%	64%	
後	同 上	94%	6%	
前	結婚後も働き続けたい。	79%	0%	21%
後	同 上	94%	0%	6%
前	母親は仕事を辞めて育児に専念した方がいい。	0%	71%	29%
後	同 上	0%	94%	6%

結婚や出産を契機に仕事の継続を疑問視する意識が見られたが、受講後は変化している。

⑤ アウトリーチ活動

◎work◎life◎
balance innovation

⑤-1 女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム

—今後の女性研究者研究活動支援について—

日時：平成24年11月20日（火） 8：30～17：05

場所：(独) 科学技術振興機構 東京本部
(サイエンスプラザ)

主催：文部科学省

- 内容：1 ポスター発表
2 グループ討議
3 パネルディスカッション
テーマ「成果の検証と課題解決のための模索」
パネラー 郷通子氏 小舘香椎子氏
後藤俊夫氏 渡辺美代子氏
文部科学省
モデレーター 山村康子氏

新規採択10大学を含む67大学が6グループに分かれ、成果の検証と今後の方策を討議し、その内容について全体の場で報告がなされた。

- ・ Aグループ（大規模機関）
成果として採択事業により科研費獲得額や論文数が増加している。事業が終了した後の財源確保が課題である。保育所の負担も大きい。大学の経費を維持するためにも女性の数の増加とリーダー育成が重要だ。
- ・ Bグループ（中規模機関・都市部）
女性限定公募を14大学中6大学が実施している。海外研究者によるグローバルメンター制度や英語論文校閲支援を行っている大学もある。女性の応募者増加が課題である。地域の中核大学として企業のモデルになることが今後必要になってくる。
- ・ Cグループ（山形大学を含む中規模機関・地域）
上位職の女性を増やすために上位の職位で女性限定公募を実施し、採用に至った際にその差額を支給する制度を実施している。女性教員新規採用率30%を達成する。今後、病児保育、学童保育、学内保育園新設が課題である。
- ・ Dグループ（医学系機関）
35歳までに学位と専門医の資格取得ができるよう「35歳への支援」を行っている。
- ・ Eグループ（理工農学系機関）
女性がリーダーや管理職になるための意識づけが必要である。
- ・ Fグループ（女子大学）
加速事業実施大学では女性教員の増加が顕著である。

山形大学のポスター発表



⑤-2 東北大学杜の都ジャンプアップ事業for2013 シンポジウム2012

—女性研究者の輝く東北を目指して—

日時：平成25年2月28日（木）

13：00～16：00

場所：東北大学百周年記念会館
川内萩ホール会議室

- 内容：1 主催者挨拶 東北大学 植木俊哉氏
2 来賓挨拶 郷通子氏
3 東北地方の各大学の取り組み報告
4 パネルディスカッション

「東北地方の女性研究者支援・養成について —これまで何が出来たか、これからの課題について—」

- 東北大学 田中真美氏
弘前大学 杉山祐子氏
秋田大学 渡部育子氏
岩手大学 菅原悦子氏
山形大学 北野通世

福島県立医科大学 関口美穂氏

議題・論点と主な発言：

- 1 各大学の制度の特徴とその背景（学内における女性研究者の現状と支援の必要性）
カップルで赴任できる制度パートナーフェローにより1人を採用した。両住まい手当制度により生活費や帰省費用の負担等を支援している。出産・育児等による長期休暇中の代替要員を効率的に採用するための人材情報データベースを構築した。
- 2 学内の支援体制・反響・反発
総論賛成、各論反対ということがあるが、女性限定公募等利用した部局でも優秀な人材を採用したことで理解を得ている。女性の育成にも力を注ぐ必要がある。
- 3 今後の展望として女性支援の在り方
40歳以下の若手研究者表彰を行い若手を育成している。リーダー研修等による次期リーダーの育成も課題である。
- 4 地域との連携（育児・介護支援・病後児保育）、学童保育、NPO等との連携
病児保育のニーズはあるが附属病院がないので地域と連携して実現する予定である。被災地にある「地域の大学」として、男女共同参画視点に基づいた復興支援に携わっている。
- 5 各大学間連携（現状、人的交流、情報共有、今後の展望）
県内高等教育機関の連携の取組や北東北採択機関の連携が行われている。東北地方大学の連携をこれから進めていきたい。また高等学校との連携も検討課題である。



⑥ 広報活動

◎work◎life◎
balance innovation

⑤-3 | 地域との連携

地域の機関等	連携内容
山形県男女共同参画センター チェリア	<p>チェリアフェスティバル山形2012 —あなたとわたしが輝く未来への一步— 日時：平成24年10月21日（日）10：00～16：00 場所：山形県男女共同参画センターチェリア（遊学館） 参加：延べ3,235人 内容：男女共同参画社会づくりをめざして活動している団体・グループの活動発表と県民との交流 連携内容：・実行委員会・ネットワーク会議参加 ・フェスティバル当日のパネル展示 テーマ：「山形大学ワークライフバランス実現への取組」 パネル：「意識改革に向けた取組」 「ワークライフバランスを可能にする職場作り」 「女性研究者の裾野拡大」 「3年間の取組の成果」</p>
山形市男女共同参画センター・ファアラ	<p>ファアラ大学講座～女性人材養成講座～ (講師：木村松子 男女共同参画推進室チーフコーディネーター) 日時：10月15日（月）10：00～12：00 「男女共同参画を知る」（基本編） 11月5日（月）10：00～12：00 「男女共同参画を知る」（行動編） 場所：ファアラ会議室 参加：市民30人</p>
山形市男女共同参画課	<p>山形市男女共同参画推進協議会 (会長：木村松子 男女共同参画推進室チーフコーディネーター) 日時：6月28日（木）10：00～12：00 第1回協議会 9月7日（金）13：30～15：30 第2回協議会 11月30日（金）15：00～17：00 第3回協議会 12月11日（火）11：30「山形市男女共同参画推進条例」骨子について答申 内容：平成23年度男女共同参画事業報告について 平成24年度男女共同参画事業計画について 「男女共同参画推進条例」の骨子について</p>
NPO法人やまがた育児サークルランド	<p>託児サポーター養成講座の共催 日時：講義 9月18日（火）～25日（火） 保育実習 9月28日（金）～30日（日）10：00～16：00 場所：基盤教育棟1号館127教室、子育てランドあ～べ</p>
大学コンソーシアムやまがた	<p>男女共同参画シンポジウムの共催 日時：11月19日（月） 場所：山形大学理学部S401教室 内容：テーマ「未来につなげる女性研究者の育成」</p>

⑥-1 | ニュースレター・メールマガジンの発行

ニュースレターを年2回、メールマガジンを隔月で発行した。

(1) ニュースレター第11号

(2) ニュースレター第12号